平成25年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会　第66回全国高等学校バスケットボール選手権大会

女子　決勝

試合日	2013年8月3日
開始時間	10:00
会場	ダイハツ九州アリーナ
コート	N
試合順	1

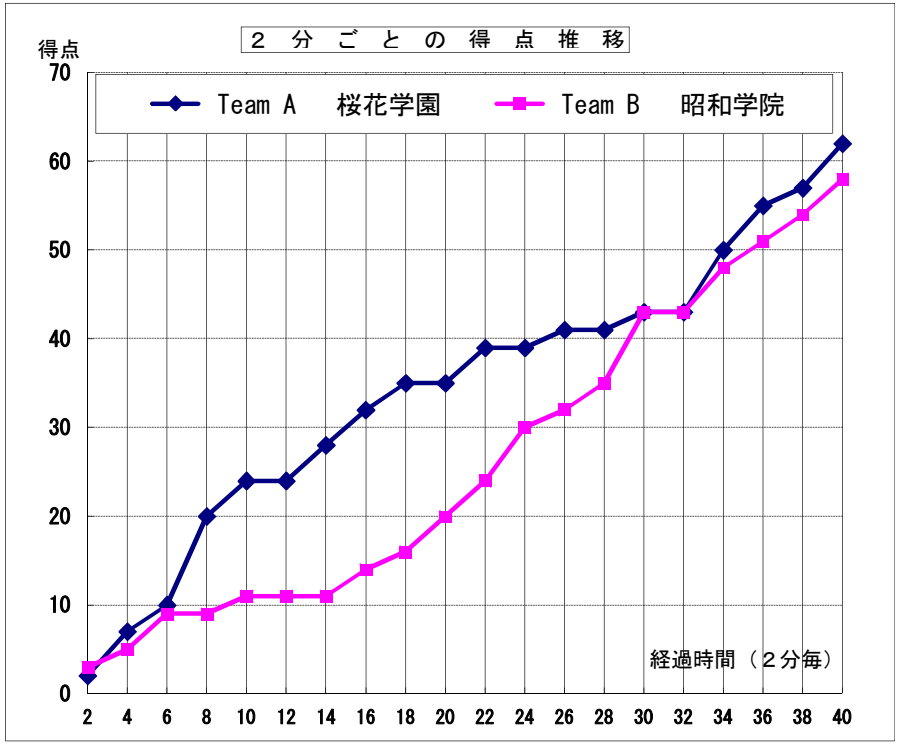
Team A			Team B
桜花学園	62	24 - 11 11 - 9 8 - 23 19 - 15 -	58	昭和学院
愛知県			千葉県

Team A　桜花学園

No.	S	選手名	PTS	3P 成功	3P 試投	2P 成功	2P 試投	FT 成功	FT 試投	F	REBOUND OR	REBOUND DR	REBOUND TOT	AS	ST	BS	TO	PT
4		遠藤　桐	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	◎	酒井　彩等	5	1	6	1	7	0	0	0	0	4	4	3	3	0	1	40:00
6	◎	馬瓜　エブリン	20	0	0	8	11	4	6	5	4	8	12	0	2	0	2	38:40
7	◎	井澗　絢音	20	0	1	8	16	4	4	2	4	8	12	0	2	1	1	40:00
8	◎	西山　詩乃	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	06:03
9		森田　菜奈枝	12	1	4	3	10	3	4	3	2	0	2	7	1	0	2	31:41
10	◎	萩尾　千尋	5	0	2	2	6	1	2	1	2	5	7	4	1	0	2	40:00
11		高辻　真子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	02:16
12		若原　愛美	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13		伊比　蘭子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14		脇　梨奈乃	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15		加藤　優希	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	01:20
Team / Coach:		井上　眞一								0	4	1	5				2	
合計			62	2	13	22	53	12	16	11	16	28	44	14	9	1	12	200
			RATE	15.4%		41.5%		75.0%										

Team B　昭和学院

No.	S	選手名	PTS	3P 成功	3P 試投	2P 成功	2P 試投	FT 成功	FT 試投	F	REBOUND OR	REBOUND DR	REBOUND TOT	AS	ST	BS	TO	PT
4		木村　優子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5		川原　明香里	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	2	06:45
6		渡部　友里奈	7	1	1	2	8	0	0	1	2	5	7	0	1	2	3	34:42
7	◎	村岡　美英	4	0	2	2	6	0	0	3	2	3	5	0	0	0	2	33:15
8	◎	小山　真実	13	3	7	2	7	0	0	3	1	4	5	0	0	0	3	40:00
9	◎	田口　明佳莉	18	4	9	3	11	0	0	3	3	3	6	1	2	0	4	40:00
10		稲垣　世羅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11		北條　彩佳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	◎	赤穂　さくら	16	0	0	7	17	2	2	3	4	11	15	1	2	1	5	40:00
13		小野尾　梨紗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	◎	山本　由真	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	05:18
15		中村　美羽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Team / Coach:		鈴木　親光								0	4	2	6				0	
合計			58	8	21	16	49	2	2	13	16	30	46	2	6	3	19	200
			RATE	38.1%		32.7%		100.0%										



タイムアウトは経過時間で表示しています

CTO	1・2P		3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	10:56		23:32	28:35	37:28				
TeamB	06:23	14:13	33:49	39:15	39:43				

戦評

連覇を目指す第1シード桜花学園に対して、31年ぶり2回目の優勝を狙う古豪昭和学院の対決となった女子決勝戦。第1ピリオド、両チームマンツーマンスタート。序盤、昭和学院#12、桜花学園#6のインサイド攻撃で幕を切る。その後、昭和学院#8の3Pに対して桜花学園はトランジションプレーで応戦。6分過ぎ、桜花学園#9,#6の1on1が功を奏してリードが5点差となったところで昭和学院タイムアウト。昭和学院は桜花学園の固いDefでミスが重なり攻撃の活路が見いだせない。逆に、桜花学園の速い展開の攻撃が冴え、24－11の桜花学園13点リードで終えた。第2ピリオド、昭和学院インサイド陣が機能しなくなり、昭和学院が#6に替えて#14を投入し、局面の打開を図ろうとするが、桜花学園の厳しいDefの前にターンオーバーが続く。次々に速攻を出され、この試合最大である19点差となる30－11とリードされたところで昭和学院タイムアウト。その後もインサイド攻撃を封じられた昭和学院はアウトサイド攻撃も単発となり、その後、双方得点を重ね、前半は桜花学園が15点リードで終了した。

第3ピリオド、挽回を図りたい昭和学院は必死の反撃を試み、#8、#12、#9と連続得点で追い上げ、桜花学園は9点差に詰められたところでタイムアウト。昭和学院がDefを2－3ゾーンにワンポイントでチェンジしたことでリズムを取り戻した昭和学院は、#9の3Pが決まり、6点差まで詰め寄る。桜花学園ポイントガードを#9に替え打開を図るがシュートのミスが続き、桜花学園タイムアウト。本来の調子が出てきた昭和学院は#9、#12の連続得点、そして、ブザービーターとなる#9の3Pで43対43の同点となった。迎える第4ピリオド、覇権奪還に燃える昭和学院、連覇を目指す桜花学園の必死の攻防が展開され、膠着状態が続き、桜花学園#7のシュート、#6のインサイド攻撃などで連続得点し、残り6分、5点リードされたところで昭和学院タイムアウト。再開後、昭和学院#8の3Pで再び2点差とする。さらに、昭和学院#6の3P、桜花学園#9の3Pの応酬から、昭和学院#8の3Pで残り2分32秒、1点差となり、桜花学園たまらずタイムアウト。決勝戦にふさわしい1点を争う攻防から、桜花学園#7フリースロー、その後、昭和学院#6がドライブからシュートを決める。残り1分20秒で、桜花学園#6が痛恨のファールで退場。再び昭和学院#9のドライブからのシュートが決まり、昭和学院1点リード。流れが昭和学院に向いたかと思われたが、桜花学園#5の3Pで再び逆転。さらに桜花学園#9のミドルシュートが決まり、残り17秒で桜花学園が4点リード。ここで昭和学院タイムアウトを請求。最後の反撃として昭和学院が3Pを狙うもシュートが落ち、そのリバウンドボールを制した桜花学園が最後のゲームコントロールをし、62－58で連覇を果たした。桜花学園は接戦の展開の中でも冷静にゲーム運びを行い、王者の貫録を見せてくれた。一方、敗れはしたものの、最大19点リードされながらも追いつき、幾度となく逆転した昭和学院の驚異的な粘りと頑張りは感動を与えてくれ、会場中から大きな拍手が送られた。

主審	清水　幹治	副審	岩木　太郎	戦評	三ツ廣　荘規
		副審	渡邊　整		

大分県バスケットボール協会